生命のにぎわい調査団

# 生命のにぎわい通信

第 54 号：発行　令和２年（2020 年）４月

発行：千葉県環境生活部自然保護課
千葉県生物多様性センター
〒260-8682　千葉市中央区青葉町 955-2
（千葉県立中央博物館内）
TEL 043-265-3601　FAX 043-265-3615
URL http://www.bdcchiba.jp/monitor/
E-mail monitor@bdcchiba.jp

## 千葉県のテントウムシ

私たちが生活する身近なところには、多種多様なテントウムシ達が暮らしています。日本には約 180 種のテントウムシが生息しており、その内、千葉県からは 55 種ほどが記録されています。そこで、今回は千葉県に生息するテントウムシの中から 9 種をご紹介します。（写真右下は撮影者の団員番号です）

### ナナホシテントウ

北海道、本州、四国、九州、対馬、南西諸島、小笠原諸島に分布する。体長は 5.0－8.6 mm ほど。斑紋が融合する異常型が見られる。アブラムシ類を捕食する。

### ナミテントウ

北海道、本州、四国、九州、対馬、南西諸島に分布する。体長は 4.7－8.2 mm ほど。大きく 4 つの斑紋パターンが存在する。集団で越冬する習性がある。

### アトホシヒメテントウ

北海道、本州、四国、九州、対馬に分布する。体長 1.7－2.3 mm ほどと小型。上翅には被毛が密生している。

### ムツボシテントウ

本州、四国、九州、対馬に分布する。体長は 2.0－2.6 mm ほど。国内では雄が見つかっておらず、単為生殖していると考えられている。日中は樹皮の下などに潜み、夜間に樹幹上で活動する。

### カメノコテントウ

北海道、本州、四国、九州に分布する。大型（8.8－11.7 mm）で、ハムシ類の幼虫などを捕食する。エノキ、ヤナギ、クルミなどで見られる。

### ムーアシロホシテントウ

北海道、本州、四国、九州、対馬、琉球列島に分布する。体長は 4.0－5.1 mm ほどで、広葉樹林で見られる普通種。

### ニジュウヤホシテントウ

本州、四国、九州、対馬、南西諸島に分布する。体長は 5.3－6.8 mm ほど。ジャガイモやナスを食害する害虫。

### ベニヘリテントウ

北海道、本州、四国、九州、対馬に分布する体長 3.9－5.4 mm ほどのテントウムシ。全体に白色から黄褐色の短毛が密生する。カイガラムシを捕食する。

### ハラグロオオテントウ

本州、四国、九州に分布する体長 11.0－12.0 mm の大型のテントウムシ。クワキジラミを捕食する。

参考文献：阪本優介（2018）．テントウムシハンドブック．文一総合出版．

最新の生物多様性に関する情報、各種講習会の情報　は、当センターと調査団のホームページをご覧ください
「調査団」http://www.bdcchiba.jp/monitor/index.html と「生物多様性センター」http://www.bdcchiba.jp/

# 古典文学と里山の生きものたちの世界

## 第八回　ヒトリシズカとフタリシズカ

詩人　大島　健夫

日本の古典文学には、様々な生きものたちがいろいろな形で登場します。かつてこの国の人々はどのように生きものとかかわり、その姿に何を見ていたのでしょう。この連載では、生物多様性センターに勤務している、ポエトリー・スラム W 杯日本代表詩人の大島健夫が、生命(いのち)のにぎわい調査団の皆様を過去の世界にご案内します。

ヒトリシズカは、センリョウ科の多年草です。春から初夏、薄暗い林床などに、花弁も萼(がく)もなく、白い花糸だけが目立つ不思議な形の花を咲かせます。フタリシズカもやはりセンリョウ科で、ヒトリシズカよりも１月ほど遅れて、同じような環境にヒトリシズカに似た白い花を咲かせます。花茎が１本のヒトリシズカに対し、こちらは通常２本以上あります。

それらの名のシズカとは、源義経の愛妾(あいしょう)の白拍子(しらびょうし)、「静御前(しずかごぜん)」に由来しています。白拍子とは、平安時代末期より流行した歌舞、そしてそれを演ずる芸人のことです。白拍子はしばしば時の有力者の愛人となり、興亡をともにしました。

静御前もまた、義経が兄・頼朝と対立して以降、数奇な運命をたどります。京都から脱出する義経と吉野山で別れた彼女は山中で彷徨し、結局逮捕されて鎌倉に護送されてしまいます。そして鶴岡八幡宮(つるがおかはちまんぐう)において、頼朝の面前で舞うことを命じられた彼女は、少しも臆せず堂々と義経を慕う歌をうたいつつ舞ってみせ、満座の観衆を感動させるのです。この時、静御前の胎内には義経の子がいました。やがて生まれた男の子は頼朝の命令で、由比ヶ浜(ゆいがはま)に沈められ、静御前自身は京に帰されました。それが彼女の存在が正史に現れる最後でした。

作　石田　理紗

世阿弥の作と伝わる、吉野山(よしのやま)を舞台とした、幽玄なイマジネーションに満ちた謡曲『二人静(ふたりしずか)』が成立したのは、それから約 200 年後の室町時代のことです。

吉野勝手明神(よしのかってみょうじん)の神事のために菜を摘みに出た女に、静御前がのりうつります。憑かれた女は、かつて静御前が奉納した衣装を取り出し、それに身を包んで舞い始めるのですが、なんとそこに、全く同じ装束の静御前の亡霊がもう１人現れるのです。憑かれた女も静、現れた霊も静。

かつての日々を回想しつつ、並んで同じ舞を舞った二人の静は、最後に、自分の人生は、まるで山桜の花びらが松風に吹かれて雪のごとく散っていくようなものだった、という言葉を残して舞台から去ってゆきます。

歴史の闇のはざまに消えた静御前は、この国の人々の心に、文字通り静かに生き続けています。文学・芸能の世界では世のはかなさを語り続け、そして自然科学の世界では、日陰に咲く花たちにその名を残しているのです。

### ＜森 晃さんが生物多様性センターを卒業しました＞

生命のにぎわい調査団事務局の森 晃です。2017 年 11 月からこのお仕事に携わらせていただきましたが、3 月をもって退職いたします。４月からは都内の IT 企業に転職します。心機一転、新しい職場でも頑張りたいと思います。皆様からの日々の発見報告を通して、千葉の生物多様性の豊かさに感銘を受けました。千葉の生物多様性について、皆様に知ってもらうべく、ホームページなど様々な形で発信させていただきました。それが、皆様に届き自然を考えるアクションにつながれば、望外の喜びです。最後になりましたが、今後も生命のにぎわい調査団をよろしくお願いします。

### ＜これからの季節に観察できる生きもの＞

○調査対象種：カワセミ、キジ，ヒガシニホントカゲ、サワガニ，キンラン、オオキンケイギク（外）など

○調査対象種以外は種の同定が難しいため、できるだけ写真の添付をお願いします。

### ＜ 生命のにぎわい調査団事務局員が代わりました ＞

４月より生命のにぎわい調査団事務局を担当することになりました加賀山 翔一です。私は大学・大学院において、千葉県に生息する淡水性カメ類の研究を行ってきました。その過程で千葉県の素晴らしい自然環境を肌で感じることができました。そこで、私が感じてきた千葉県の素晴らしい景観や生物多様性について、皆様に知ってもらうべく、ホームページなどの様々な形を通して情報を発信させていただきたいと考えております。これからどうぞよろしくお願いいたします。